

西から東へ流れているそうです。沖縄の石垣島沖から、私が住んでいる渥美半島の横を通り、房総半島まで流れる海流です。大祖母のやしの実も、この流れに乗ってたどり着いたものだということが分かりました。

四月七日、やしの実を流した人と、拾った人の対面式が、伊良湖のホテルで行われました。大祖母のやしの実を拾ってくれたのは、静岡県沼津市に住む、小学六年生の女の子でした。夏休みの自由研究で、海岸に漂着するものを調べるために、近くの海岸に出かけたところ、プレートに付いたやしの実を発見したそうです。そのプレートに、
「愛のココナツツメッセージ、波によせ、想いは遙かに恋路ヶ浜、このやしの実を拾われた方お電話ください」
と書かれていたそうで、びっくりして田原市の観光ビューローへ電話したそうです。

大祖母は、拾い主が六年生の女の子だと分かり、ひ孫が一人増えたみたいだと喜んでいました。九十歳の大祖母と、全く知らない十一歳の女の子が出会うなんて、なんだかとても不思議な気持ちになりました。

SNSを使って、全く知らない人と出会う今の世の中で、昔から変わらず流れ続けている、海の潮の流れに乗ったやしの実が結びつける不思議な縁は、現代では奇跡としか思えません。私は、まるで自分に起こった奇跡のように、わくわくしながら大祖母の話聞いていました。

大祖母の趣味は俳句です。やしの実を拾ってくれたお礼に、一句詠みたかったのですが、あまりの緊張と喜びで、詠む余裕がなくなってしまったそうです。

六月下旬に、母がまた、石垣島に行きました。どうやら、今年もやしの実会員になったらしく、千六百キロ離れた石垣島から、恋路ヶ浜に流れ着くことを願って、イベントに参加したそうです。ツアーには、一般客の人達の他に、市長さんや、第一回目から参加しているおじいさんもいたそうです。そして、今年も、大祖母の娘夫婦も参加しました。対面式で感激する大祖母の姿を見て、

「石垣島は、どんな素晴らしいところなんだろうか？」

と、参加されたそうです。

現地の母から、写真や動画が、何度もメールで届